

18歳人口の減少が続き、大学を取り巻く学生募集環境が年々厳しくなっている。このような環境下において私立大学では、志願者が集まる大学とそうでない大学の2極化が拡大している。2007年度の2008年度入試では、全私立大学の志願者数の過半数を、首都圏と近畿圏(近畿圏は本学を含む8私大)の大規模21大学で占めており、志願者は都市部の大規模校へ集中の傾向を見せている。

2008年度に実施した2009年度入試も、「選抜機能が働いている大学」の位置を保持すべく、引き続き「選抜試験出願数50,000人」を目標として、受験生のニーズにあった入試制度改革を行うとともに、支持基盤である関西圏の有力校との関係を深める地道な募集活動を行った。

一方、学生の質確保の観点から、本学への帰属意識の高い学生が集まる指定校推薦入試を重視し、地元と地方とで異なる指定校枠を設けて戦略的な推薦依頼を行った。

1) 入学試験制度

本学の主な選抜入試は、公募推薦入試(11月実施)、一般入試A日程(1月実施)、一般入試B日程(2月実施)、一般入試C日程(3月実施)、センター試験利用入試[前期募集]、センター試験利用入試[後期募集]である。

◆入試制度改革

一般入試A日程とB日程の実施日を、A日程2日間、B日程3日間だったものからA日程3日間、B日程2日間に変更し、従来出願者が多かったA日程を本学の主幹入試と位置づけた。また、より多様な受験生が受けやすい入試を目指し、「2教科型公募推薦入試」には、調査書の評定平均値を得点化しない2科目方式を新設した。「一般入試A日程」「一般入試B日程」の配点セレクト方式で、選択科目重視型(理工学部は理科重視型)を採り入れた。加えて、2007年度まで同一試験日の併願を不可としていた「2教科型公募推薦入試」と「一般入試C日程」も、短期大学部を除いて併願可とした。

◆入学時奨学金制度の変更

一般入試A日程・B日程で、スタンダード方式の得点率80%以上の合格者、およびセンター試験利用入試[前期募集]の成績上位者を対象として、給付する「アカデミック・スカラシップ(入学時奨学金)制度」を変更した。これまで前期(センター試験利用は年間)授業料相当額を1、2年次に給付していたものを1年次のみに変更するとともに、2年次以降については学業成績優秀奨学金制度に引き継いだ。

2) 学生募集結果

◆選抜試験志願数の目標達成

大学全体の厳しい入試環境のなか、それぞれの制度改革が功を奏した結果、公募推薦入試と一般入試の志願者は増加した。選抜試験志願数は、2007年度は49,868人であったが、2008年度は957人増の50,825人で、目標を達成した。(内訳は、公募推薦入試は445人増の11,543人、一般入試は1,373人増の33,691人、センター試験利用入試は861人減の5,591人。)

◆センター試験利用入試の志願減

2008年度のセンター試験利用入試の出願者は2007年度比13%減となった。受験生に出願を促す制度改革がないまま、アカデミック・スカラシップの制度を変更したことも要因の一つと考えられる。

入学後の成績優秀者に2年次より給付する新たな奨学金制度を設けたが、受験生に魅力が浸透しなかった。

3) 入学志願者募集活動

◆高等学校・予備校訪問

近畿圏を中心として延べ1,000校余りの高等学校・予備校を訪問し、本学の教学内容、入試制度の浸透、出願の促進を図った。また、課長職位者による有力高等学校への訪問活動についても継続して実施した。

◆本学主催イベント

本学を志望する受験生やその保護者との重要な接触機会である「オープンキャンパス」は、在学生の活躍する場を多く設けた上で6日間（深草学舎4日間、瀬田学舎2日間）開催し、合計11,956名の参加者（2007年度11,679名）があった。また、公募推薦入試、一般入試の出願時期に実施している「入試直前対策講座」については、本学志願動向を加味して開催会場や内容を検討した結果、近畿圏を中心に計21会場（2007年度16会場）で開催した。

◆進学相談会・出張模擬講義

全国各地で開催される「進学相談会」へは、入試アドバイザーの協力のもと95会場へ参加した。また、各学部教職員による出張模擬講義や説明会についても参加し、大学の総力をあげて学生募集に取り組んだ。